

施策調査専門委員会の検討状況について

【 第45回施策調査専門委員会 (H30.11.22) 】

- <議題>
- 1 施策の中間評価に向けた指標検討について
 - 2 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度実績版)について
 - 3 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について
 - 4 県民参加型ワークショップに関する検討状況報告
 - 5 環境DNA調査の分析結果報告

<主な意見(要旨)>

【 議題 1 】 施策の中間評価に向けた指標検討について

- ある程度説得力のある指標と、努力して算出するが、それに準じるような指標との2段階くらいを設定しておき、森林に関しては、対照流域法や生態系調査のモデルを介して県下森林域全体に広げ、試算してみてもどうか。
- 指標案が①から⑨までであるが、準ずる指標については実線ではなく点線で囲むなどし、森林にあと1つか2つ入れることができるか検討して欲しい。
- 今議論しているような指標は、特別対策事業の評価だけではなく、一般財源での事業効果も含む評価となるので、そうした点についても説明が必要。
- 指標が意味するものや解釈をセットで示しておかないと、どういう意味なのか分からない。解釈を共有化し、書き添える必要がある。県民に分かりやすい解説が伴っていないと、指標だけ選んでも伝わらない。(平均スコア値、植被率など)
- 指標案③については、全国を見渡す中で、神奈川県がどのあたりにあるかを示せると良い。全国的な統計値があれば、それとの比較でも良いかもしれない。大都会を抱えている横浜・川崎と、他の首都圏という似たところを比較するのも悪くない。

【 議題 2 】 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度実績版)について

- 整理No.17について、外来植物が増えているという話であれば非常に大きなトピックスであるが、不嗜好性植物が主というのは、ある時点の場面を切り取った話でしかないのでは、それほどこだわることはない。よって、この文言を記載する必要性はないと考える。むしろ水源の話からすると、下層植生が回復してきたということこそが重視することだと思う。
- 整理No.18、19について、「今後解決していくべき課題はあるものの」、の前に「～のような」という形で具体例を1、2行で纏めてはどうか。
- 本委員会後、2回目の意見照会があるので、現時点では【検討中】や【検討継続】と記載しておき、本件についても意見照会してはどうか。

【 議題 3 】 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について

引継内容の原案を確認し、詳細の検討は次回委員会にて議論することとした。

【 議題 4 】 県民参加型ワークショップに関する検討状況報告

資料により事務局から検討状況を報告し、当日の参加者数や集合時間、分科会の進め方などについて確認を行った。

【議題5】環境DNA調査の分析結果報告

県環境科学センターより平成30年度に実施した環境DNA調査の結果について説明し、来年度以降の調査予定や今後の検討課題等について確認を行った。

【第46回施策調査専門委員会（H31. 1. 30）】

- ＜議題＞
- 1 施策の中間評価に向けた指標検討について
 - 2 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度版)について
 - 3 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について
 - 4 平成31年度の委員会開催スケジュール等について
 - 5 平成31年度実施モニタリング調査について（主な変更点）

＜主な意見（要旨）＞

【議題1】施策の中間評価に向けた指標検討について

- 指標案②について、指標の定義が明確になっていない（ランクA・B・C・D・外）。『手入れ』のように人の作業自体を示す表現ではなく、森林の状態を表すことのできるような表現にできるとよい。
- 参考指標案Aについて、糞塊調査は、11月に集中して行うので、その時期にシカがどこに居たかによって結果が左右される。誤解を受けないよう全体の個体数の推移グラフの併用も検討してみてもどうか。
- 参考指標案Bについて、シナリオで理想と放置とあるが、放置してもそこまで悪くならないのでは。自然の回復力も考慮したほうがいい。また、理想と記載すると行政としてこの水準を求めていると誤解を生む可能性もある。
- 参考指標については、本日の議論後、具体化する中で作業が生じるのでそれを見て再度議論したい。
- 研究（調査）サイドからすると数値はきちんとしなければならないが、ここで扱うのは行政評価のための指標であり、別ではないか。サイエンスでは×だが、行政評価としては○というものもあるのでは。こうした議論もあるので、指標の検討については、時間に縛られず議論しないといけない。
- 指標で対象にする森林がどういうものか（人工林、天然林）、どの地域（エリア）を対象に評価していくのかは、実際に指標を適用する段階で必要になってくるので、年度内には整理しておきたい。また、実際に適用できるかも大事なので、（1）数値化や（2）目標値の設定の可否についても今後検討が必要。
- 指標案①と②を今後具体化する。参考指標案ABについては参考情報とし、中間評価のどこかで記載する。掲載内容については4月以降も引き続き検討する。
- 国の指標もゴールを100%にしているものはあまりない。平成38年度時点で100%になっているのが良い風にも見えるが、行政的にはそうではないという風にした方がよい。
- 中間評価では、過去の状況と現状（変遷）で比較するのが一つ。目標値については、中間評価で決められないものあるだろうし、設定できるものも100ではないかもしれない。そのあたりの課題も含めて中間評価ということになるだろう。

【議題2】特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度版)について

- 全体の総括で「概ね順調に進められていると評価できる。」という文章に主語がない。なくても意味は十分伝わると思うが、何が順調に進められているのか、主語にあたる文言があると良い。
- 1番事業(水源の森林づくり事業の推進)の事業総括について、「全国的にみても先行している山岳域でのシカ生息数減少と～」という文については、誤解のないよう修正が必要ではないか。

【議題3】施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について

- 県民に広く発信するフォーラムや施策懇談会が次年度もしくは再来年度にあった方が良く、これを記載してはどうか。施策委員会としては県民会議でそういうのを進める部分を担いたい。というレベルであれば記載できるか。
- ③の中に、『県民意見も踏まえ広く介する形で(意見書の作成や経済評価を行う)』という形でも良いのかと思う。最終案は事務局と委員長で調整する。

【議題4】平成31年度の委員会開催スケジュール等について

- ③に施策懇談会があり、議決をする県民会議とは別に開催された方が良い。6月の施策委員会では施策懇談会に向けた準備が必要なので、議題④として追記した方が良い。施策懇談会は県民会議マターではあるが、施策の指標検討や経済評価など内容は当委員会で検討しているテーマがメインになるだろう。
- ①のスケジュールで経済評価の実施が平成34年度にあるが、その準備段階も明記してはどうか。
- ①で平成32年と33年にかけて、第4期計画への策定とあるが、第4期が終わった後の議論の準備を始めるという話題はあえて入れていないのか。行政として書けないのは分かるが、県民会議としては大きな問題である。その検討が4期の欄に必要では。細かい議論は時期尚早だが、20年の大綱が現況とどう変わっているかをチェックすることをそろそろ始めても良いのでは。

【議題5】平成31年度実施モニタリング調査について(主な変更点)

県から平成31年度に実施するモニタリング調査の主な変更点について説明し、意見交換を行った。